系統的研究を

会長　有沢広己

ラテン・アメリカ政経学会が発足してから3年目の年を迎え，ここに会誌第1号を発刊するに至つたことはまことにご同慶にたえない。

かつて私は友人とともに「ラテン・アメリカの経済的社会的断層」と題する研究を発表したことがあるが，その中でラテン・アメリカが資源に富んだ将来注目すべき大陸であることを示唆したように記憶している。それから30年，わが国とラテン・アメリカとの交流はしだいに盛んになり，特に戦後はわが国の企業が相次いでラテン・アメリカに進出するなど，わが国におけるラテン・アメリカへの関心はますます高まりつつある。

ひるがえつて，わが国のラテン・アメリカ研究の現状をみると，未だしの感を禁じえない。これは研究者が不足しているうえに，研究者相互間の協力がうまくいつていないことに原因があるように思われる。その結果，これまでのラテン・アメリカ研究の多くは概観的なものにとどまつていたのである。もちろん，ラテン・アメリカに関する一般的知識がまだまだ低いわが国の現状からみて，こうした概観的なものは依然必要であるが，そろそろ研究者同士が協力してなにか系統的な研究を行なつてしかるべきであろう。

この意味において，ラテン・アメリカ政経学会の活動に期待するところはきわめて大きいのである。幸い，会員諸君の尽力によつて，本学会もようやく〃揺籃期〃を終え，本格的な〃成長期〃にはいろうとしている。学会誌の創刊を機会に，会員諸君のなお一層の努力と研鑽とによつて，本学会がますます発展することを期待したい。